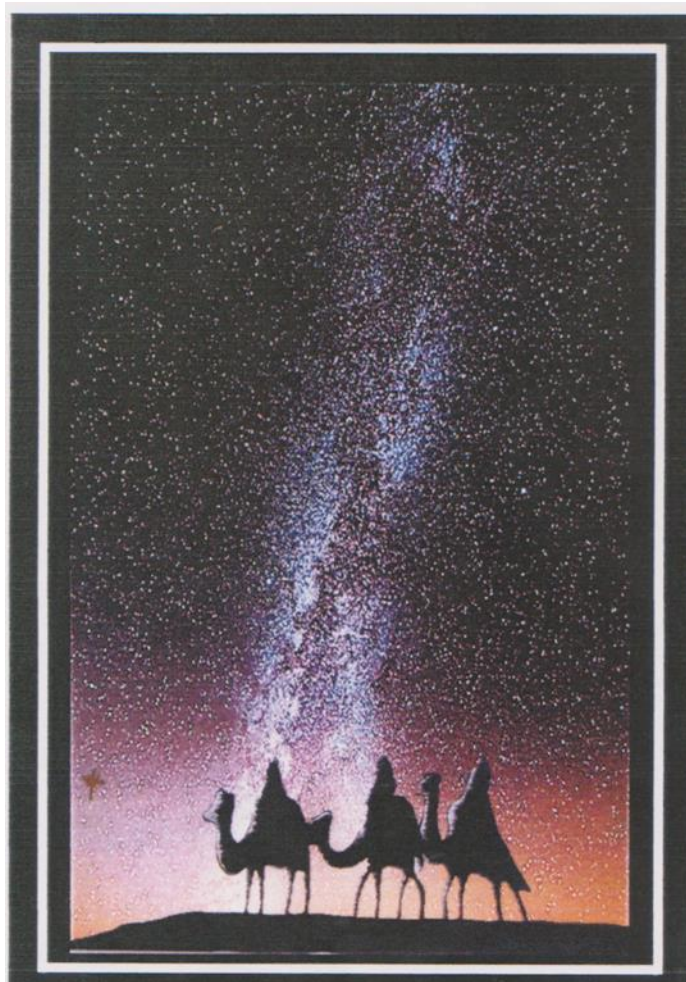


一イザヤ60章・1-6、エフェソ3章・2, 3b、5-6、マタイ2章・1-12

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」(中略)これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。 —マタイ2章—



画：昌川神父

### 星に導かれて

かつて、アブラハムに夜空を見上げさせ、満天の星のように地上に子孫を約束された神は、イザヤの予言が満ちたとき、星々の中から一つの星を遣わして、その子孫たちが住む地上に光を放ちました。

この光りにいち早く注目し、行動を起こした三人の占星術の学者は、全世界すべての人を現しています。道中、困難があっても光を見失うことがあっても、求める心には、神がやがて自ら貧しい馬小屋に導くでしょう！

暗い夜空に放たれた星の輝きは、人々を生かすパンとなつて飼葉桶に眠る幼子のメッセーシを世に伝える、私たち信仰者一人ひとりの存在です。

今日の祭儀は、救いはユダヤだけでなく、全世界に向けられていることを公に示した記念すべき祭日です。世界の人々が、唯一の神を信じて平和で幸せな世界になることを祈り祝う日です。

2023年1月8日

主任司祭 昌川信雄